

経済・金融
フラッシュ米個人所得・消費支出(24年11月)
PCE 価格指数(前年同月比)は総合、コア指数と
ともに市場予想を下回る

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 前月比で個人所得、個人消費ともに市場予想を下回る

12月20日、米商務省の経済分析局(BEA)は11月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得(名目値)は前月比+0.3%(前月改定値:+0.7%)と+0.6%から小幅上方修正された前月、市場予想(Bloomberg集計の中央値、以下同様)の+0.4%を下回った(図表1)。個人消費支出は前月比+0.4%(前月改定値:+0.3%)と+0.4%から小幅下方修正された前月を上回った一方、市場予想の+0.5%は下回った。価格変動の影響を除いた実質個人消費支出(前月比)は+0.3%(前月:+0.1%)と前月を上回った一方、市場予想の+0.3%に一致した(図表5)。貯蓄率¹は4.4%(前月:4.5%)と前月から▲0.1%ポイント低下した。

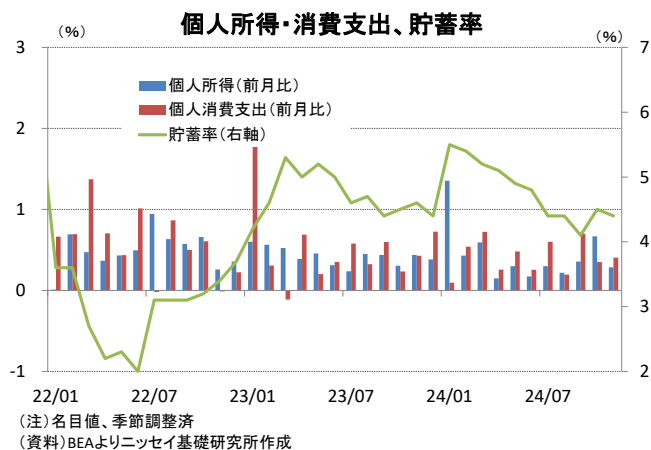
価格指数は、総合指数が前月比+0.1%(前月:+0.2%)と前月から低下、市場予想(+0.2%)を下回った。変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数も前月比+0.1%(前月:+0.3%)とこちらも前月から低下、市場予想(+0.2%)も下回った(図表6)。前年同月比は総合指数が+2.4%(前月:+2.3%)と2ヵ月連続で上昇した一方、市場予想(+2.5%)は下回った。コア指数は+2.8%(前月:+2.8%)と前月に一致した一方、市場予想(+2.9%)は下回った(図表7)。

2. 結果の評価: インフレ指標は前月比が低下したほか、前年同月比も市場予想を下回る

個人消費(前月比)は9月が+0.7%と高い伸びを示した後、10月が+0.3%、11月が+0.4%と堅調な伸びを維持しており、実質GDPにおける個人消費は10-12月期の前期年率で前期の+3.7%に続いて+3%超を維持する可能性が強まっている(図表1)。とくに、11月の個人消費は財消費が堅調となっており、年末商戦となった可能性を示唆している。

これに対して、個人所得(前月比)は賃金・給与は+0.6%と堅調な伸び維持したものの、個人所

(図表1)



¹ 可処分所得に対する貯蓄(可処分所得-個人支出)の比率。

得が+0.3%、可処分所得が+0.4%といずれも個人消費を下回った結果、貯蓄率が4.4%と小幅ながら前月から低下した。

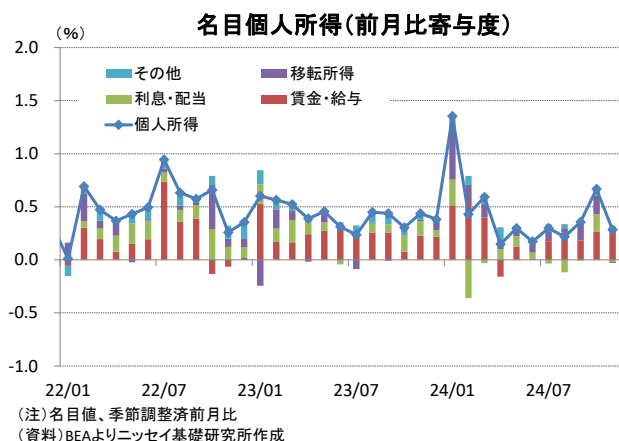
一方、FRBが物価指標としているPCE価格指数は前月比で総合指数、物価の基調を示すコア指数ともに前月から低下したほか、前年同月比では総合指数が2ヵ月連続で上昇したものの、市場予想を下回ったほか、コア指数も前月から上昇を見込んだ市場予想を下回っており、足元のインフレ上振れ懸念が幾分緩和した。

3. 所得動向:賃金・給与が堅調を維持も利息配当収入、移転所得が減少

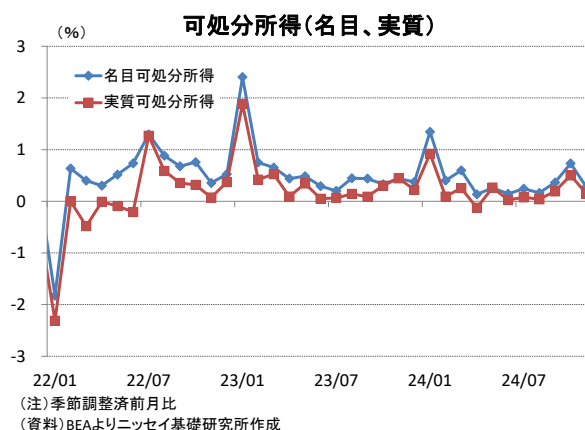
11月の個人所得（前月比）では、賃金・給与が+0.6%（前月：+0.5%）と前月から伸びが加速した（図表2）。一方、自営業所得が0.1%（前月：+0.4%）と前月から伸びが鈍化したほか、利息配当収入が▲0.1%（前月：+1.0%）、移転所得が▲0.1%（前月：+1.0%）といずれも高い伸びとなった前月の反動もあって前月からマイナスに転じた。

個人所得から税負担などを除いた可処分所得（前月比）は、11月の名目が+0.3%（前月：+0.7%）と前月から伸びが鈍化した（図表3）。価格変動の影響を除いた実質ベース（前月比）は+0.2%（前月：+0.5%）とこちらも前月から伸びが鈍化した。

(図表2)



(図表3)



4. 消費動向:自動車を中心に耐久財消費が増加

11月の名目個人消費（前月比）は、財消費が+0.8%（前月：▲0.1%）と前月からプラスに転じた一方、サービス消費が+0.2%（前月：+0.6%）と前月から伸びが鈍化した（図表4）。

財消費は、耐久財が+1.8%（前月：+0.2%）と前月から大幅に伸びが加速したほか、非耐久財が+0.2%（前月：▲0.3%）と前月からプラスに転じた。

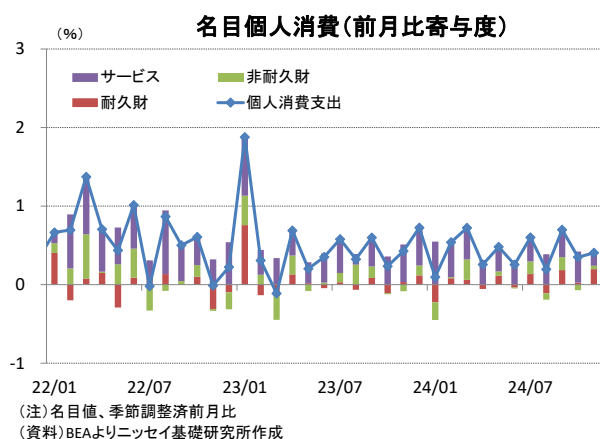
耐久財では、自動車・自動車部品が+3.1%（前月：+0.6%）と前月から大幅に伸びが加速したほか、娯楽財・スポーツカーが+2.2%（前月：▲横這い）、家具・家電が+0.6%（前月：▲0.2%）といずれも前月からプラスに転じた。

非耐久財では食料・飲料が▲横這い（前月：▲0.1%）、ガソリン・エネルギーが▲0.1%（前月：▲1.5%）と前月からマイナス幅が縮小したほか、衣料・靴が+1.4%（前月：▲0.5%）と前月から大幅なプラスに転じて非耐久財消費全体を押し上げた。耐久財消費や非耐久財の衣料・靴消費の大

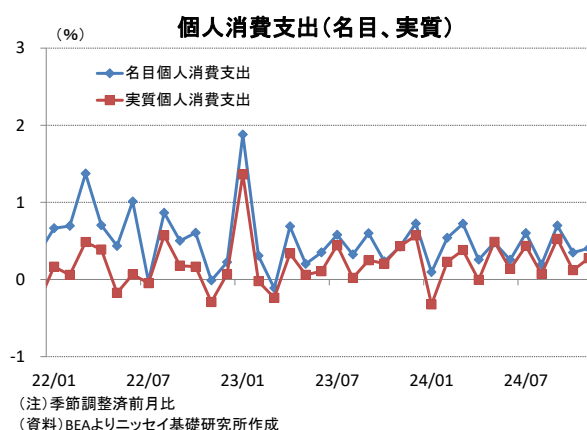
幅な増加からは年末商戦が好調となった可能性が示唆される。

サービス消費は、娯楽サービスが+1.6%（前月：+0.1%）と前月から大幅に伸びが加速したほか、金融サービスも+0.9%（前月：+0.7%）と小幅ながら伸びが加速した。一方、住宅・公共料金が+0.1%（前月：+0.5%）。医療サービスが+0.4%（前月：+0.5%）、外食・宿泊が+0.1%（前月：+1.0%）と前月から伸びが鈍化したほか、輸送サービスが▲0.5%（前月：+0.5%）と前月からマイナスに転じてサービス消費を押し下げた。

(図表 4)



(図表 5)

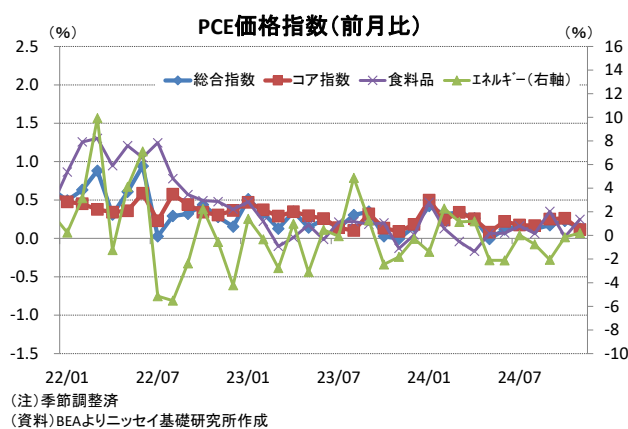


5. 価格指数: エネルギー価格は前月比でプラスに転じたものの、前年同月比では4ヵ月連続物価を押し下げ

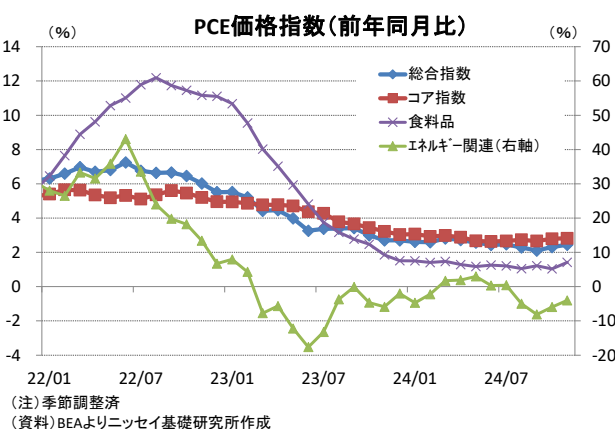
価格指数（前月比）の内訳をみると、エネルギー価格指数が+0.2%（前月：▲0.2%）と4ヵ月ぶりにプラスに転じた（図表6）。一方、食料品価格指数は+0.3%（前月：横這い）とこちらは7ヵ月連続でプラスとなったほか、プラス幅が拡大した。

前年同月比は、エネルギー価格指数が▲4.0%（前月：▲6.0%）とマイナス幅は縮小したものの、4ヵ月連続のマイナスとなった（図表7）。食料品価格指数は+1.4%（前月：+1.0%）と89ヵ月連続でプラスとなったほか、プラス幅が拡大した。

(図表 6)



(図表 7)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。